

令和4年度 京都市立上賀茂幼稚園の教育

1 教育目標

心豊かに いきいきと 心身ともに たくましく育つ子

園長 下村 貞之

【教育目標の思い】

- 心豊かに (1) 人・生き物・自然を愛し、やさしく接することができる。
人・生き物・自然との関わりを通して、自分や他者の命を大切にしようとする。
人、生き物、自然とのふれ合いを通して、感受性豊かに、素直に楽しさや美しさや良さが感じられる。
- いきいきと (2) 身の回りのさまざまな出来事に興味や関心をもち、夢中になって、最後までやりきろうとする。
さまざまな出来事に、興味や関心を持ち、自ら挑戦し、挑んでいく勇気を持つ。
- 心身ともに (3) 自分自身や他者の心と体の健康をいつも大切にしてすごす。
- たくましい (4) 何事に対してもあきらめずに、ねばり強く最後までやりぬく。
自分や他者の健康や安全に気づき、行動することができる。

全教職員が進める5つの園運営の柱

- ・『いのち』 ~子どもの命を守り切る~
新型コロナ感染症や様々な天災・事故・怪我・いじめ等の子どもの命を脅かす要因から子どもを守り切る。
- ・『よりそい』 ~多様な子どもを誰一人取り残さない教育を進める~
すべての子どもをできる存在として受け止め受け入れ、1人1人の良さを見つけ、大切に育む事が公立幼稚園の使命である。
すべての親を受け入れ、子育ての悩みや不安に寄り添い、子育ての支援を行う。
- ・『つとめ』 ~教職員の職責を自覚し、研鑽することで、教育の質を高める~
「心豊かに いきいきと 心身ともに たくましく育つ子」この教育目標の実現を目指し、日々の研鑽に努め、次代を生き抜くために必要となる様々な遊びや、I C T機器を園児が自己表現のためのアイテムの一つ、コミュニケーションツールの一つとして、また遊びの幅や探求心を高めるためのアイテムの一つとして活用できるようになるための支援が行える力量を、教職員ら積極的に身に付ける。

・『ひろがり』～カリキュラムマネージメントの視点を持って社会に開かれた教育課程を実現する～

地域・関係機関との連携は勿論のこと、地域の子育て支援センターとして役割を果たし、地域の子は地域で育てる事を理念とし、広く地域に開かれた次代を担う子どもたちの健やかな成長の支援機関としての役割を果たす。

子育てにとってより有益な情報を、保護者を含めた幅広い子育て世代の親へ発信する。

日常の保育や様々な園行事を、カリキュラムマネージメントの視点を持ってリンクさせ、年間を見通した教育計画に基づいた保育を行う。

・『つながり』～校種間連携・接続により子どもを支える～

幼稚園と小学校のみならず、中学校とも連携し在園児と共に卒園児の卒園後のケアについても大切に行う。

コロナ禍ではあるが、隣接する小学校との交流を再度深め、必要に応じてオンライン交流も活用し、違和感なく就学できるようにしていきたい。

公立幼稚園として隣接する公立小学校との深い結びつきを特徴として、園児獲得の要素の1つにしていきたい。

昨年度から引き続き、発達特性のある園児のより深い理解やサポートの為、療育施設との連携や総合支援学校育支援センターの活用を進めていきたい。

10 の姿との関係性(1)は、1, 7, 10, (2)は2, 3, 5, 6, (3)は1, 2, 3, 4, 7, (4)は、4, 8, 9,

1 健康な心と体 2 自立心 3 協同性 4 道徳性・規範意識の芽生え 5 社会生活とのかかわり 6 思考力の芽生え 7 自然とのかかわり・生命尊重 8 数量や図形、標識や文字などへの関心 9 言葉による伝えあい 10 豊かな感性と表現

2 めざす幼稚園像

- ・園児が楽しく、安心して通える幼稚園
- ・美しく、保育環境が整えられた幼稚園
- ・保護者から信頼される幼稚園
- ・地域から心の拠り所とされる幼稚園
- ・I C T 環境が整備され次代に適応した環境がある幼稚園

3 めざす子ども像

- ・夢中になって遊べる子ども
- ・感動したり、共感したりする子ども
- ・自分の思いを言葉や体や I C T 機器を使って表現しようとする子ども
- ・やさしさや思いやりの気持ちをもち、命を大切にしようとする子ども
- ・葛藤を繰り返しながら、最後までやり抜く子ども

4 めざす教職員像 「教職員及びそれらを支える教職員」

- ・「すべては子どものために」を信条に、熱い思いをもち、初心を忘れず意欲的に教育活動を進める教職員。
- ・「自らが高まることは、子どもが高まること」を信条に、あらゆる機会をとらえて自己研鑽し、その成果を教育活動に生かそうとする教職員。
- ・「子どもにとってどうか。」をすべての基本の考え方として、子ども一人一人の持つ力や可能性を引き出すために、保護者、地域と共に教育活動を進めようとする教職員。
- ・「整った教育環境は教育の出発点」として、美しい場づくりや保育環境・ICT活用等の環境づくりに努める教職員。
- ・「教職員は子どものモデルである」を信条に、服装、態度、言葉使い等に気を配り、けじめをもって活動し、社会人として、公務員として、自覚をもって生活する教職員
- ・

5 めざす園長像

- ・園児一人一人を徹底的に大切にする。
- ・園児一人一人の命を守り切る。
- ・保護者に徹底して寄り添う。
- ・保護者・教職員を大切にする。
- ・保育についての専門性を高める。
- ・PTA や地域との連携を密にする。
- ・関係機関との連携を大切にした園運営を行う。

6 経営方針

- ・地域の文化遺産や自然など地域の特性を生かした教育を進める。
- ・めざす教職員像を追求しながら、教職員の和によって、めざす学校像・めざす子ども像にせまる
- ・子どもに「就学後の学力の基礎となる力につけるための遊び」について研修を深める。
- ・子どもに「将来に向けての生きる力の基礎となる力につけるための遊び」について研修を深める。
- ・鋭い人権感覚を持つために、常に人権意識の高揚を目指した人権研修を行う。
- ・発達や学びの連續性を踏まえた幼保小と中も交えた交流及び連携を進める。
- ・子育て支援の充実を図り、園と家庭との連携を深め、家庭の教育力を高める。
- ・地域の人材を活用し、地域に愛された上賀茂幼稚園を目指す取組を進める。

7 実践活動

(1) 保育の充実

- ・幼稚園教育要領に基づいた指導計画や教育課程に則した保育環境を整える。
教職員の職種を超えた協力体制、研究の推進を図る。
- ・地域や園内の豊かな自然環境や保育環境を生かした教育活動を行うとともに、
京都や地域の伝統文化にも参加する。
⇒上賀茂神社、大田神社、葵祭、やすらい祭、祇園祭
- ・支援を必要とする園児に対する手立て・対応を考え、工夫や研修を推進する。
⇒1対1対応、園内研修会の充実
- ・保育の様子が分かるよう情報発信を積極的に行う。
⇒ホームページの充実（園長・担任・わくわく・保健・事務／週1回…1日
1回は必ずアップ）
- ・規範意識を高めるための適切な声掛けや方法を考える。
⇒個別に支援を要する子どもへの声かけと保護者への説明。そのための教職員の研修を充実する。
- ・計画的な人権研修を行い、人権意識の高揚を図る。
⇒同和問題の本質についての研修。

(2) ゆとりのある行事

- ・行事の見直し、充実を図る。
⇒感染症対策を取りつつ、内容を吟味し可能な形で行事の見直しを図る。
- ・職員会議の能率化と充実を図る。
⇒企画委員会の在り方

(3) 環境整備

- ・安全で美しく、子どもが安心して遊べるように整った環境の幼稚園にする。

(4) 未就園児の子育て支援推進事業（教育相談事業）

- ・たまご組（0～2歳児）火・金曜日 午前9時30分～11時30分
- ・ぴよぴよ組（2歳児）水曜日 午前9時30分～11時30分
- ・ひよこ組（3歳児）月～金曜日 午前9時30分～11時30分
→必要に応じて2人体制、帰りの会、誕生会その他園行事

(5) 家庭との連携

- ・PTA役員との連携を深め、PTA活動を充実する。
⇒月1回の本部役員会の実施
- ・子どもへのより良いかかわり方等をテーマに家庭教育講座を計画する。

⇒年間3回の実施、誕生会時に子育てについて話し合う場を設ける

- ・学校評価（毎日の情報交流・アンケート）を行い、保育に生かす。

⇒年2回実施、学校運営協議会の活用

⇒大学教授による保育参観と家庭教育講座の実施

- ・登園時刻の意識付け　登園（8：50～9：00）降園（～14：00）

(6) 幼・保・小・中・大連携

- ・交流行事を実施する。
- ・研修や打ち合わせなど相互理解を推進する。
- ・生き方探求やチャレンジ体験を受け入れる。
- ・学生との交流を積極的に行う。

(7) 地域との連携

- ・地域行事や園行事での交流を行う。
- ・地域の人材を活用する。
- ・学校評価により園に対する意見をもらう。（評価方法を検討する）

(8) 学校運営協議会の充実

- ・年4回実施する。（総会2回、定例会2回）
- ・園活動に積極的に関わってもらう。
- ・組織作りに力を入れる。

(9) 園児数の確保拡大に向けて

- ・ニーズの調査
- ・上賀茂幼稚園のPR活動
- ・関係機関（はぐくみ室・児童館との連携）
- ・子育て支援（未就園保育）の充実たまご組のミニばら組化